

令和7年度教員長期研修

研修種目 国語科教育

# 自ら授業改善し、共に伸びる

— 授業者・参観者のリフレクションを促す取組を通して —

府中町立府中小学校 大脊戸 将

# アンケートから見えてきた研究の方向性

学びたい  
意欲が  
高い

授業改善  
のチャンス

- ・授業参観が大切
- ・授業公開後に振り返りを行うこと。
- ・授業改善したいが時間的余裕がない。
- ・示範授業を全教職員に公開し、学びの場としているが、参観できない。

時間が  
ない

参観  
できない

## 【所属校の強み】

- ・「学びたい」思い
- ・示範授業を学びの場とする取組
- ・振り返りの重視

短時間・効率的

他者から学ぶ意欲が高いにもかかわらず、それに割く時間が短い

中央教育審議会「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について～学び合い、高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて～（答申）」（平成27年）  
OECD（2024）による国際教員指導環境調査（TALIS）



教職員の学ぶ意欲を授業改善につなげるためには、短い時間で効率的に授業改善に向けて学ぶことができる方法の開発が必要



振り返りの充実がポイント

# 研究における私の取組

## I 2段階のリフレクションを促す場の設定

①「つばきリフレクション」

②「くじらリフレクション」



学校教育目標  
「自ら学び、共に伸びる」  
を意識して!!

## II 教職員全体で学びを共有する仕組みづくり

# リフレクション

## 定義

学習成果の獲得に寄与する反省的思考、  
内省、省察

千々布敏弥（2021）、大山牧子ら（2023）を基に稿者が作成

# 研究仮説

授業者・参観者のリフレクションを促す取組を通して、教職員自らが授業改善し、一人の学びを全体に共有することで共に伸びるであろう。

# 授業改善とリフレクションの関係

バンマネン(1977)によるリフレクションの3段階論(千々布(2021)を基に稿者が作成)

子供が想定どおり発言しない場合のリフレクション例

リフレクションの段階	内容
1. 技術的リフレクション	汎用的な技術や手法を授業に適用していくこと。
2. 実践的リフレクション	教師が授業場面に応じて行っている即興的な意思決定のこと。
3. 批判的リフレクション	授業で意識すべき目的自体を常に見直す姿勢と考え方のこと。

「子供の想定発言を学習指導案に書いておけばよかった。」と振り返る。

子供の発言を即興的に解釈し授業デザインを修正する。

子供の発言を受け止め、指導意図を柔軟に見直す。

リフレクション  
つばき

リフレクション  
くじら

授業改善につながる

# リフレクションを促す取組①

## 2段階のリフレクションを促す場の設定

### ①つばきリフレクション

内容:授業直後に行う技術的、実践的リフレクションを促す

時間:1分間以内

### ②くじらリフレクション

内容:つばきリフレクションを踏まえて

放課後に行う実践的、批判的リフレクションを促す

時間:10分間以内



## 概要 第1ターム(10月~11月)、第2ターム(12月)

### ①つばきリフレクション

- 内容: 授業直後に行う技術的、実践的リフレクションを促す
- 時間: 1分間以内

授業者

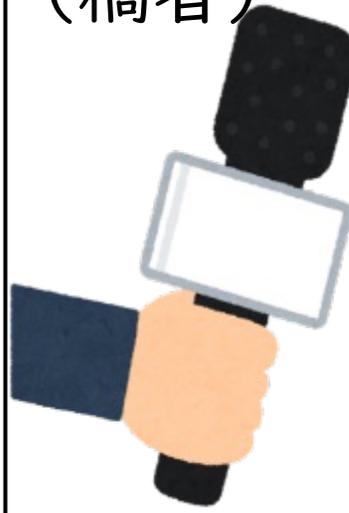


担当者  
(稿者)



子供の姿を  
基に即興的  
な意思決定を  
行っていたこ  
とへの自覚化  
を図る質問

担当者  
(稿者)

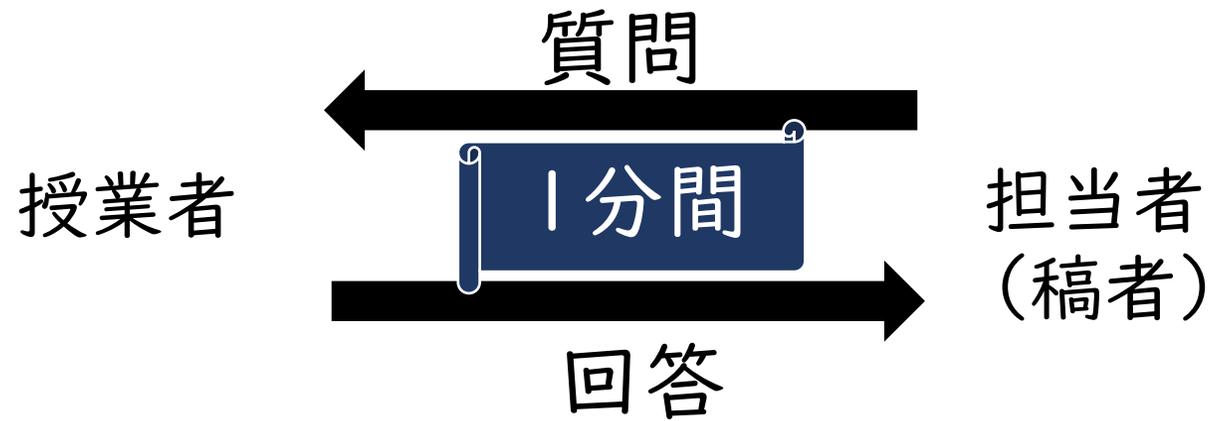


- 自身の経験と授業展開を比較することで自身の実践的リフレクションを促す質問
- 授業者による実践的リフレクションの場面に気付く質問

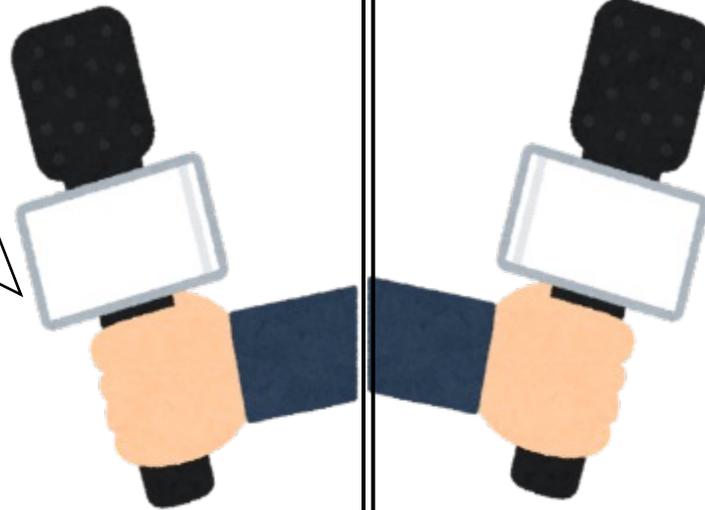
参観者



# 第1ターム(10月~11月) つばきリフレクション



授業の成果  
と課題を教  
えてください。



担当者  
(稿者)

授業からの  
学びを教え  
てください。



# 「つばきカード」

つばきカード (10月24日) 名前( ○○○○ )



自分の問い(授業参観を通して学びたいことは?)

答えのない道德の課題に対して、子供たちにどのようにして多様な意見を出させているのかを学びたい。

自分の問いに対するリフレクション(気づき・質問・学びを実践につなげられそうなこと等)

- ・親切にされた経験を導入で聞き、自分事としてとらえさせる。
- ・「ぼく」の気持ちを考えさせる時間を十分にとり、おばあちゃんの涙を見た時の気持ちにつなげられるようにする。
- ・体験したことを思い出させ、「ぼく」の気持ちを考えやすくする。

このカードは、くじらリフレクションで使用するので持参してください。

授業参観前  
自分の問い

授業参観後  
自分の問いに対する  
リフレクション

くじらリフレクションへ

道徳科（第4学年） 「思いやりの心」

第1ターム

授業者

1分間

授業の成果と課題を教えてください。

〇〇が難しかったから、他にどのような手立てが考えられるかな。

手立ての種類視点

技術的リフレクション

1分間

授業からの学びを教えてください。

【つばきカードの記述内容】  
子供たちが意見を活発に交わしていた授業だったので、子供たちへの多様な意見の出させ方についてもっと学びたい。

子供の多様な意見を出させる方法

技術的リフレクション

参観者



# 第1タームにおける実践の問題と改善策

	授業者への質問	参観者への質問	問題と改善策
第1ターム (10月～11月) 質問内容	授業の成果と課題を 教えてください。	授業からの学びを 教えてください。	<b>問題</b> 子供の姿が見えない
第2ターム (12月) 質問内容	↓ 授業を行っていて、 計画から変えたところ はどこですか。それは なぜですか。	↓ 授業者に聞きたい ことはありますか。 それはなぜですか。	<b>改善策</b> 実践的リフレクション につなげられるように する

## 家庭科（第5学年）「物を生かして住みやすく」

## 第2ターム

1分間

授業者



授業を行っていて、  
計画から変えたところ  
はどこですか。  
それはなぜですか。

子供の姿から計画して  
いた時間配分を変えた。

子供の姿から即興的な意思決定

実践的リフレクション



1分間

参観者



授業者に聞きたいことはありま  
すか。それはなぜですか。

【つばきカードの記述内容】  
整理・整頓の仕方について、子供の発  
言・態度・記述から、どのように考えを広  
げているのか学びたい。

本時の目標と子供の発言・態度・記述  
を結び付けて手立てを振り返る

実践的リフレクション

質問→無自覚→自覚化

1分間で実践的リフレクション

## 概要

### ②くじらリフレクション

- ・内容: つばきリフレクションを踏まえて放課後に行う実践的、批判的リフレクションを促す
- ・時間: 10分間以内



授業者

参観者

無自覚な技術的リフレクション、実践的リフレクション、批判的リフレクションにつながる気付き

ファシリテート



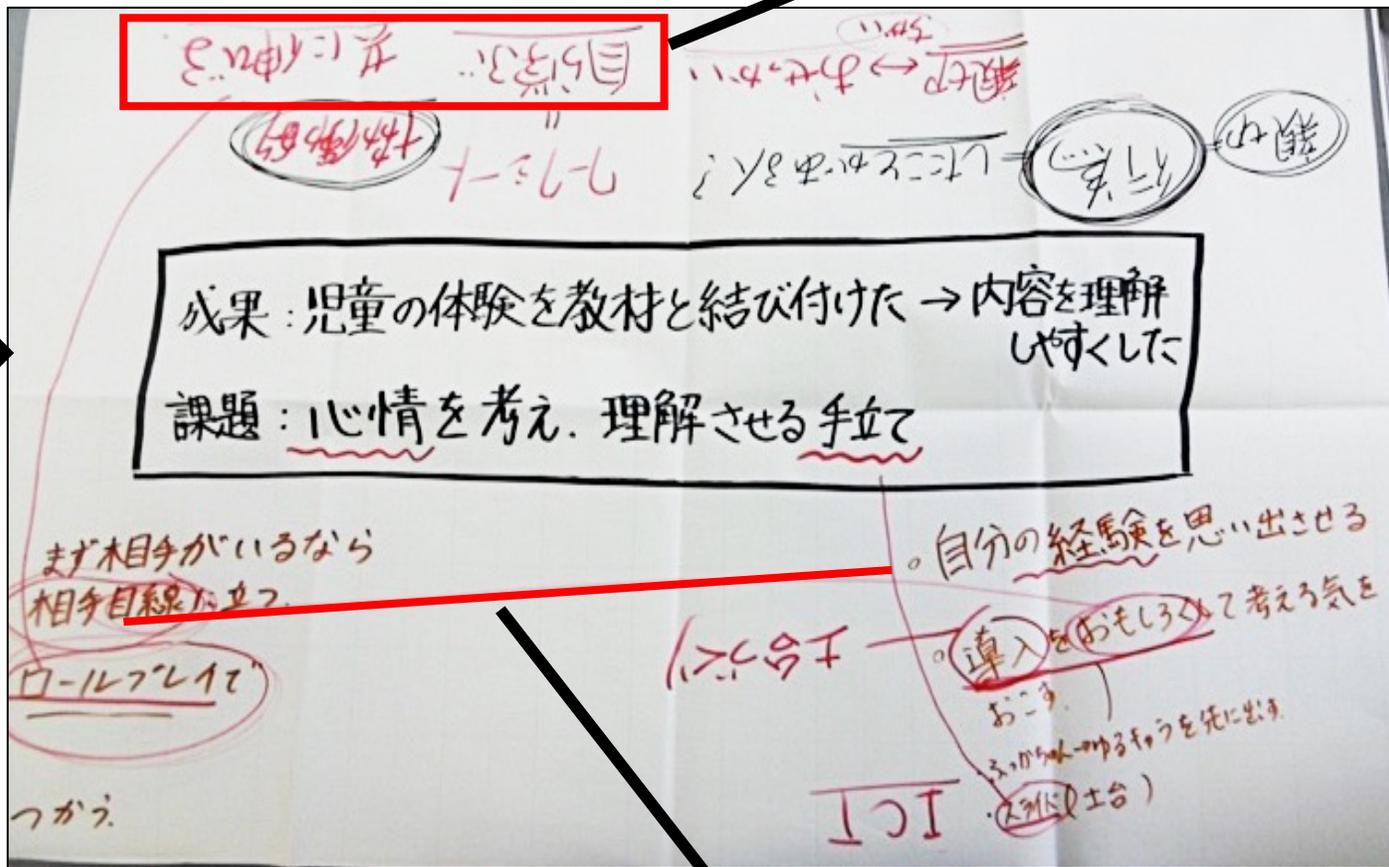
整理 ↓ 価値付け

自覚化

批判的リフレクション

# 第1ターム

## 学校教育目標とのつながり



出てきた考えを線でつなぐ

参観者

参観者

なんでだろう？

そうだったのですね！

模造紙

どうしてですか？

具体的には  
どういうこと？

担当者

# 第1タームを受けたくじらリフレクションの問題と改善策

第1タームの内容

授業の成果と課題を起点としたリフレクション

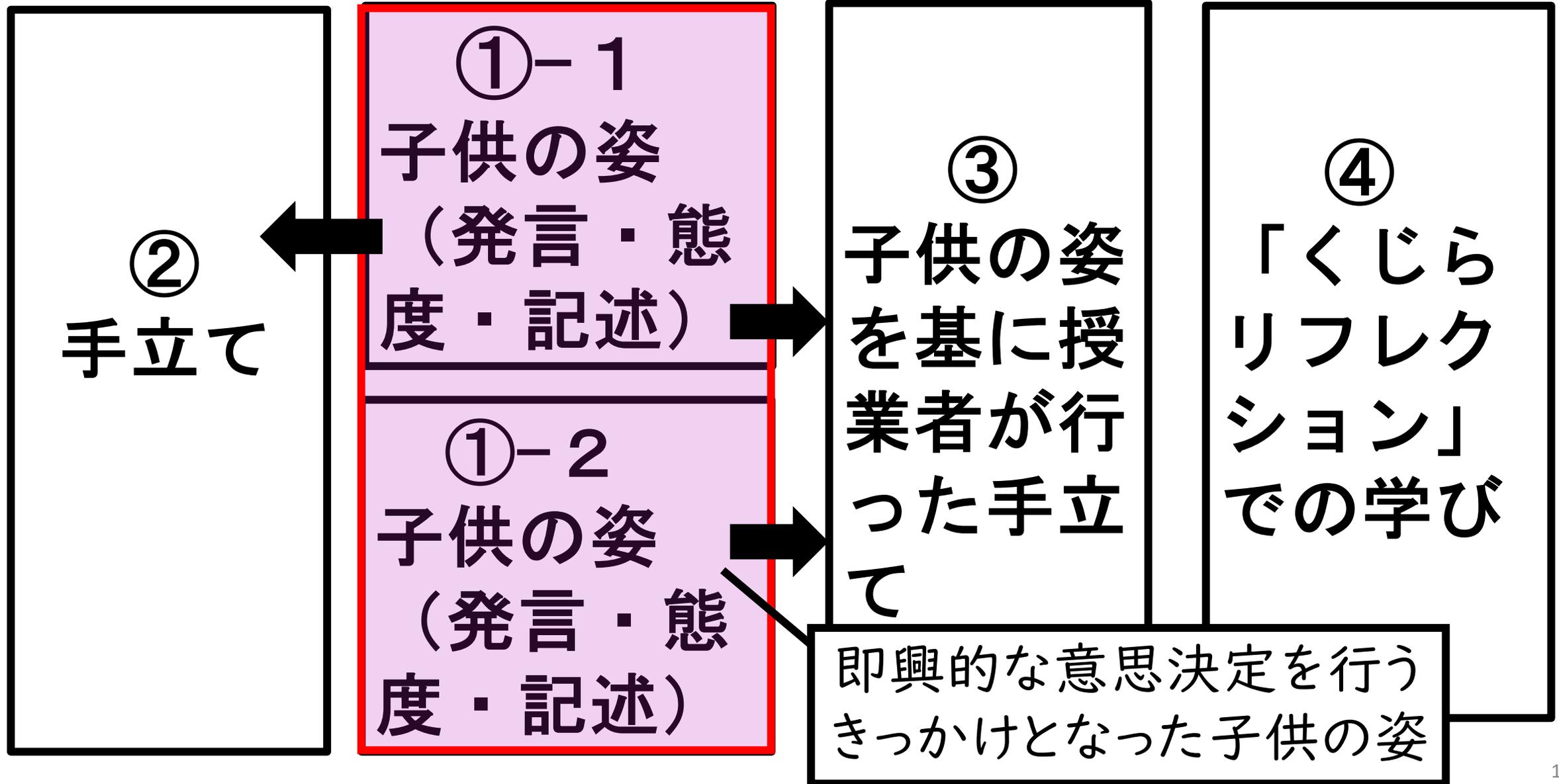
問題

子供の姿を基にしたリフレクションにならず、  
批判的リフレクションを促すことができない。

改善策

- ・子供の姿（発言・態度・記述）を起点としてリフレクションを行うためのリフレクションシート
- ・つばきカードの内容を技術的、実践的、批判的リフレクションに分類

# 第2タームから用いたリフレクションシート



# 第2ターム

参観者

なんでだろう？



子供たちは本気になって取り組んでいました。

授業者

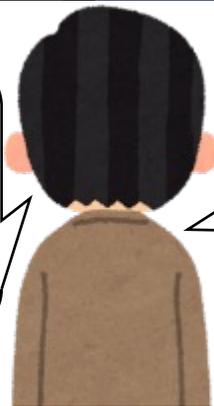


子供の姿と手立てをつなぐ

学校教育目標とのつながり

リフレクションシート

具体的にはどういうことですか？



どうしてですか？

担当者

①-2子供の姿(発言・態度・記述)

①-1子供の姿(発言・態度・記述)

③子供の姿に基づいて授業を行った手立て

④「くじらリフレクション」での学び

コツとやる気  
どこに何を置くか  
決める。(友達と一緒)  
大切だけど好きになら  
ない。(難しく思っていた)

一生懸命やっていた。  
3つの課題をやっていた。

①-2子供の姿(発言・態度・記述)

①-2子供の姿(発言・態度・記述)

①-2子供の姿(発言・態度・記述)

授業者の実践的リフレクション



# I 2段階のリフレクションを促す場の設定

これまでの  
事後協議

【時間】

・数十分かかる

【協議内容】

・批判的リフレクション  
まで促すことが難しい

2段階のリフレクションを促す場の設定

つばきリフレクション(1分間)

授業者

参観者



無自覚だった  
考えを表出

くじらリフレクション(10分間)

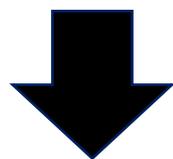
批判的リフレクションを促す  
本質的な気づきへ自覚化

短時間・効率的

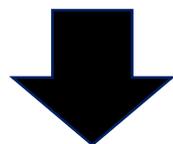
## II 教職員全体で学びを共有する仕組みづくり

実際に作成した  
**自学共伸シート(A4判1枚)**

校務支援システムで共有



学びを広げる



共に伸びる

10月24日		自学共伸シート	授業者:
道徳科(4年) 「ボロといっしょ」	相手のことを思いやり、進んで親切にしようとする心情を育てる。(主題「思いやりの心」)		
<p>おばあちゃんのおみみを見て、ぼくは          どんよ気持ちになつてしまふか。          かわいた太のことを思い出した。          家族のことを思い出した。          「そっとしておいた。」          ボロにだけ聞いてほしいことも          あるんじゃないかな。          二人だけの時間がいらぬんじゃないか          ・相手の気持ちを考えよう！          ・困っている人に自分から声をかける。          ・さりげない。</p> <p>ここ見て ポイント！ 中心発問と 繰り返し発問で 児童の考えを広 げる。</p> <p>主人公「ぼく」の状況を理解して心情を考える場面(ワークシートの活用)</p>			
つばきリフレクションの内容		くじらリフレクションの内容	
<b>授業者から授業直後のコメント(成果○と課題●)</b> ○先日の起震車体験や他教科との関連を図り、教材を入れ替えて授業することで、子どもにとって教材の内容と結び付けやすく、想起しやすくなりました。 ●実際に避難所での体験がない児童に、避難所で生活している方の内面(心情)を理解させることが難しかった。(どのような手立てが考えられるのか)		参加者自らが授業者から学びたいことを設定:「どのようにして多様な意見を出させるのか学びたい」 その自らの問いに対して、3つの気付きがあった。 ・親切にされた経験を導入で聞く。 ・児童自らが考えるために時間を十分に確保する。 ・起震車体験を想起させることで、中心発問に対して主人公の心情を考えやすくする。	
<b>くじらリフレクションの内容</b> ・「そっとすることも親切の一つ」と子どもたちの新たな気付きが生まれたのはなぜか。 石原先生は導入で「親切にしたことあるかな?」と問うと、子どもの大部分が手を挙げた。次に「 <b>親切とはどうすること?</b> 」と問うことで、子どもから「人にやさしくする、人が喜ぶことをする、困っている人を助ける」という考えを引き出した。 つまり、授業始めの子どもたちは、 <b>親切とは「何かしてあげる」といった「行為」をすることだと思っていた</b> 。石原先生は「 <b>子ども達の自ら考える力を伸ばす</b> 」ためにワークシートを活用し、子どもの記述から「 <b>何で話しかけないでそっとしておいたのかな</b> 」と <b>繰り返して発問</b> したことで、 <b>相手の気持ちを考えて「そっとすること」も親切の一つだ</b> という子どもたちの新たな気付きにつなげることができたと考えられる。 ・導入で既習事項(起震車体験など)を写真で用意し、活用したことで、子どもの学習に向かう意欲が高まった。(教材・教具の工夫による既習とのつながりが子どもの意欲を高めるために有効)			
実践につなげたこと			

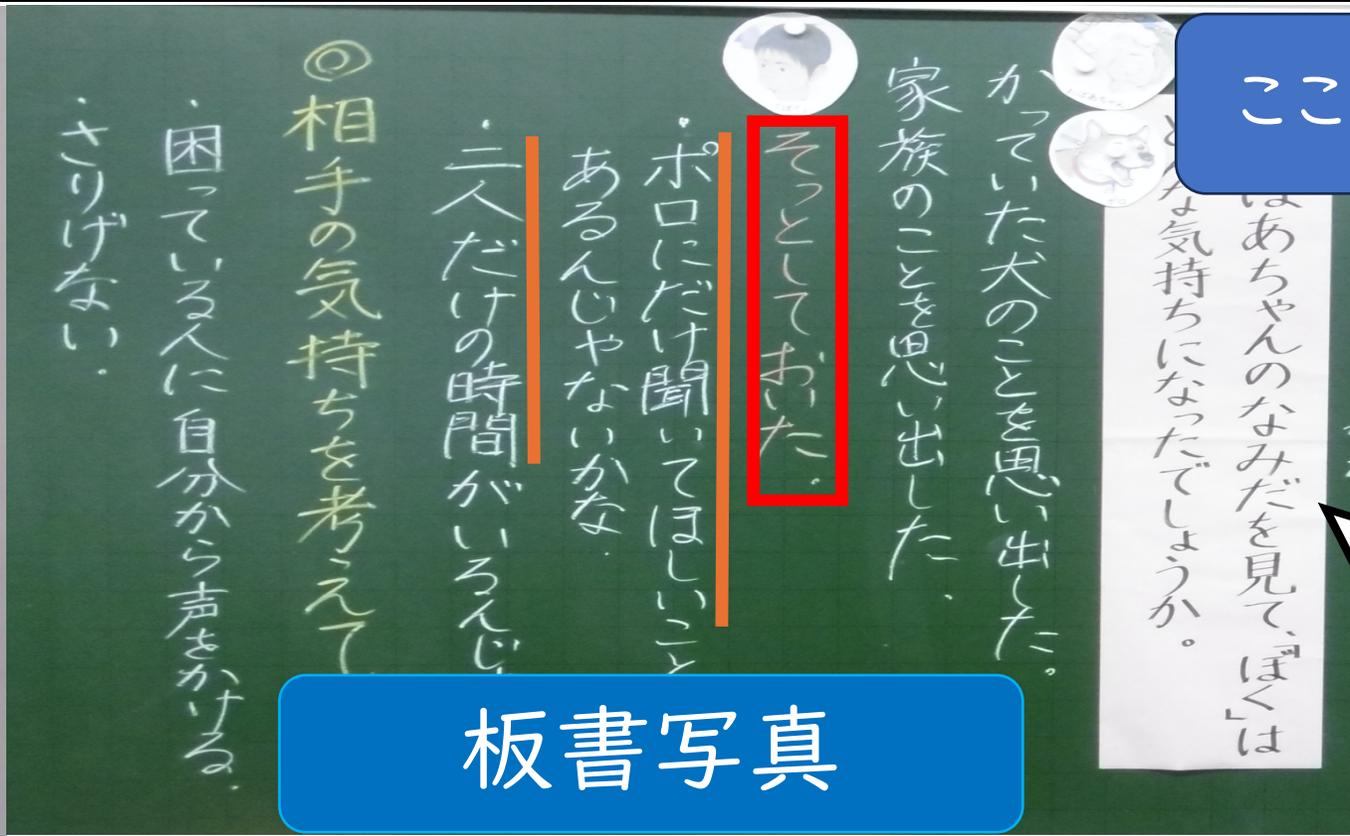
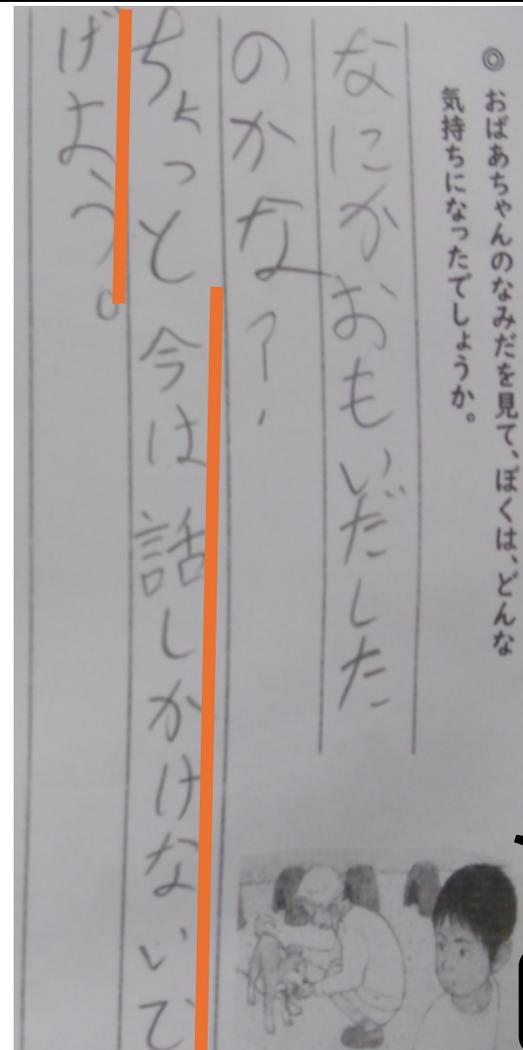
10月24日

# 自学共伸シート

授業者：

道徳科（4年）  
「ポロといっしょ」

相手のことを思いやり、進んで親切にしようとする心情を育てる。（主題「思いやりの心」）



ここ見てポイント!

ここ見てポイント!  
中心発問と  
切り返し発問  
で児童の考えを  
を広げる。

板書写真

主人公「ぼく」の状況を理解して心情を考える場面（ワークシートの活用）

子供のワークシート

## つばきリフレクションの内容

### 授業者から授業直後のコメント（成果○と課題●）

○先日の起震車体験や他教科との関連を図り、教材を入れ替えて授業することで、子どもにとって教材の内容と結び付けやすく、想起しやすくなった。

●実際に避難所での体験がない児童に、避難所で生活している方の内面（心情）を理解させることが難しかった。（どのような手立てが考えられるのか）

### 参加者からの授業直後のコメント

参加者自らが授業者から学びたいことを設定：「どのようにして多様な意見を出させるのか学びたい」

その自らの問いに対して、3つの気づきがあった。

- ・親切にされた経験を導入で聞く。
- ・児童自らが考えるために時間を十分に確保する。
- ・起震車体験を想起させることで、中心発問に対して主人公の

## つばきリフレクションの内容

### くじらリフレクションの内容

・「**そっとすることも親切の一つ**」と子どもたちの新たな気づきが生まれたのはなぜか。

石原先生は導入で「親切にしたことあるかな？」と問うと、子どもの大部分が手を挙げた。次に「親切とはどうすること？」と問うことで、子どもから「人にやさしくする、人が喜ぶことをする、困っている人を助ける」という考えを引き出した。

つまり、授業始めの子どもたちは、**親切とは「何かしてあげる」といった「行為」**をすることだと思っていた。石原先生は「**子ども達の自ら考える力を伸ばす**」ためにワークシートを活用し、子どもの記述から「何で話しかけないでそっとしておいたのかな」と切り返して発問したことで、**相手の気持ちを考えて「そっとすること」も親切の一つだ**という子どもたちの新たな気づきにつなげることができたと考える。

・導入で既習事項（起震車体験など）を写真で用意し、  
教具の工夫による既習とのつながりが子どもの意欲を高

## くじらリフレクションの内容

### 実践につなげたこと

## 実践につなげたこと

# 第2タームから実際に作成した自学共伸シート

## 自学共伸シート

教科：5年 家庭科  
 単元：物を生かして住みやすく

授業実施日：12月5日（金）  
 授業者：〇〇先生

本時の目標 整理整頓や掃除の必要性が分かり、それらの適切な仕方を考え、手順に沿って実践することができる。

### 手立て



・事前アンケートで学級全体の結果を**可視化**する。（個人から全体へ）

課題意識の共有

・オクリンクの使用（実態把握としてタブレットの扱いに慣れた子ども達）

子どもの実態把握

### 子供の姿

#### 【発言・記述内容】

- 心情面
  - ・コツとやる気。
- 本時の目標に迫る
  - ・どこに何を置くか決める。
  - ・（整理整頓は）大切だけどすきではない。

#### 【態度】

・一生懸命「Before、Afterの写真、ポイントをまとめる」の3つに取り組んでいた。



#### ①-2子供の姿(発言・態度・記述)

・整理整頓の**個人差が大きい**  
 （はじめから整理整頓ができている児童、整理整頓に時間がかからない児童）

### 即興的な手立て

・途中で活動を**終え、全体共有へシフトチェンジ**（臨機応変）

・**全員ができるように**、余裕をもった締切時間を設定（児童の焦る気持ちへのアプローチ）  
 ・**コーチ**として任命（早く終わった児童へ役割を与える）

### くじらリフレクションからの学び

で児童の納得感へつながる。（Beforeを写真で残す）

・**早く終わった児童に役割をもたせることで協働的な学び**につなげる。**個人差を埋める手立て**にもなる。（**共に伸びる**集団へ）

「早く終わったけど何する？」など、**自己決定の場を与える**ことも考えられる。

→学級経営の工夫



# 第1ターム

# 選択肢を増やす

# 第2ターム

10月24日	自学共伸シート	授業者:
道徳科(4年) 「ボロといっしょ」	相手のことを思いやり、進んで親切にしようとする心情を育てる。(主題「思いやりの心」)	
<p>ここ見てポイント！中心発問と切り返し発問で児童の考えを広げる。</p> <p>主人公「ぼく」の状況を理解して心情を考える場面(ワークシートの活用)</p>		
つばきリフレクションの内容	参加者からの授業直後のコメント	
授業者から授業直後のコメント(成果と課題) ○先日の起震車体験や他教科との関連を図り、教材を入れ替えて授業することで、子どもにとって教材の内容と結び付けやすく、想起しやすかった。 ●実際に避難所での体験がない児童に、避難所で生活している方の内面(心情)を理解させることが難しかった。(どのような手立てが考えられるのか)	参加者自らが授業者から学びたいことを設定:「どのようにして多様な意見を出させるのか学びたい」 その自らの問いに対して、3つの気づきがあった。 ・親切にされた経験を導入で聞く。 ・児童自らが考えるために時間を十分に確保する。 ・起震車体験を想起させることで、中心発問に対して主人公の心情を考えやすくなる。	
くじらリフレクションの内容		
・「そっとすることも親切の一つ」と子どもたちの新たな気づき生まれたのはなぜか。 石原先生は導入で「親切にしたことあるかな？」と問うと、子どもの大部分が手を挙げた。次に「 <u>親切とはどうすること?</u> 」と問うことで、子どもから「人にやさしくする、人が喜ぶことをする、困っている人を助ける」という考えを引き出した。 つまり、授業始めの子どもたちは、 <u>親切とは「何かしてあげる」といった「行為」をすることだと思っていた</u> 。石原先生は「 <u>子ども達の自ら考える力を伸ばす</u> 」ためにワークシートを活用し、子どもの記述から「 <u>何で話しかけないでそっとしておいたのかな</u> 」と切り返して発問したことで、 <u>相手の気持ちを考えて「そっとすること」も親切の一つだ</u> という子どもたちの新たな気づきにつなげることができたと考ええる。 ・導入で既習事項(起震車体験など)を写真で用意し、活用したことで、子どもの学習に向かう意欲が高まった。(教材・教具の工夫による既習とのつながりが子どもの意欲を高めるために有効)		
実践につなげたこと		

取組の全体像が分かりやすい

教科: 5年 家庭科 単元: 物を生かして住みやすく	自学共伸シート		授業実施日: 12月5日(金) 授業者: OO先生
本時の目標	整理整頓や掃除の必要性が分かり、それらの適切な仕方を考え、手順に沿って実践することができる。		
②手立て	①-1 子供の姿(発言・態度・記述)	③子供の姿を基に授業者が行った手立て	④「くじらリフレクション」での学び
<p>Before After 整理整頓のポイント</p> <p>【発言・記述内容】 ○心情面 ・コツとやる気。 ○本時の目標に迫る ・どこに何を置くか決める。 ・(整理整頓は)大切だけどすぐではない。 【態度】 ・一生懸命「Before、Afterの写真、ポイントをまとめる」の3つに取り組んでいた。</p> <p>課題意識の共有</p> <p>オクリンクの使用(実態把握としてタブレットの扱いに慣れた子ども達)</p> <p>子どもの実態把握</p>	<p>・事前アンケートで学級全体の結果を可視化する。(個人から全体へ)</p> <p>・途中で活動を終え、全体共有ヘシフトチェンジ(臨機応変)</p> <p>・全員ができるように、余裕をもった締切時間を設定(児童の焦る気持ちへのアプローチ)</p> <p>・コーチとして任命(早く終わった児童へ役割を与える)</p>	<p>・写真で比較させることで児童の納得感へつなげる。(Beforeを写真で残す)</p> <p>・早く終わった児童に役割をもたせることで協動的な学びにつなげる。個人差を埋める手立てにもなる。(共に伸びる集団へ)</p> <p>「早く終わったけど何する?」など、<u>自己決定の場を与える</u>ことも考えられる。</p> <p>→学級経営の工夫</p>	
	①-2子供の姿(発言・態度・記述)		
	<p>・整理整頓の個人差が大きい(はじめから整理整頓ができていない児童、整理整頓に時間がかからない児童)</p>		

子供の姿が見えやすい

# 自学共伸シート

授業を参観したい教職員が

- ・授業の様子
- ・授業者・参観者のリフレクションの内容

を

いつでも

どこでも

自分のタイミングで

## I 2段階のリフレクションを促す場の設定 ①「つばきリフレクション」の分析と考察

## 教職員アンケート2回目（12月中旬）

4段階で回答、肯定的理由

つばきリフレクションは、自身の授業改善につながる取組だと思います。

所属校平均  
3.6

記憶に新しい中でのリフレクションだから、すぐにねらいや思いを聞くことができる。

つばきリフレクションは、今後も続けた方がよいと思います。

所属校平均  
3.3

参観できなかった授業から多くの学びがあり、授業改善として今後の授業づくりの視点になる。

## I 2段階のリフレクションを促す場の設定 ②くじらリフレクションの分析と考察

4段階で回答、肯定的理由

くじらリフレクションは、自身の授業改善につながる取組だと思います。

所属校平均  
3.7

言語化することで新たな気づきや発見があり、先輩教員からの学びも多い。

くじらリフレクションは、短時間で、実践につながる取組だと思います。

所属校平均  
3.7

短い時間で多くのことを学ぶことができ、他者の意見と自分の振り返りで実践につなげやすい。

くじらリフレクションは今後も行った方がよいと思います。

所属校平均  
3.5

短時間で少人数だったことで話しやすく、授業者の意図も話すことができた。

10分間の短い時間で振り返りができるからよい。

## II 教職員全体で学びを共有する仕組みづくり 「自学共伸シート」の分析と考察

4段階で回答、肯定的理由

授業改善のために、自学共伸シートは必要だと思います。

所属校平均  
3.2

授業者の意図が分かり、参観者の参観する視点も明確になり、  
授業改善につながる。

# 事前・事後アンケートの振り返りに関する記述を分類

重要性・効果

方法

タイミング・時間

内容・視点

## 事後アンケート

## 事前アンケート

項目	具体的な考え	
授業研究後の取組	授業研究時に意識していることがある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>所属校の研究推進・発問、板書</li> <li>新しいことに挑戦・ICTの活用</li> <li>児童が主体的になる授業づくり</li> </ul>
	授業研究後に意識的に行っていることがある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究推進に向けてのアプローチ方法</li> <li>児童への手立てや言葉掛け</li> <li>目標に対する発問・児童の変容</li> </ul>
	授業改善のために大切だと思うこと。	<ul style="list-style-type: none"> <li>効果的な言葉掛けや発問</li> <li>授業を見て特支の目線で何が取り入れられるか話し合っている。</li> <li>共有する時間がない。</li> <li>学年で取り入れられそうなこと</li> </ul>

項目	具体的な考え	
授業研究後の取組	つばき	<ul style="list-style-type: none"> <li>記憶に新しい中でのリフレクション</li> <li>授業のポイントが参観の視点となる。</li> <li>つばきカードの活用</li> </ul>
	くじら	<ul style="list-style-type: none"> <li>多くの意見をもらうことで、参観者の見方や考え方を知ることができ次につながる。</li> <li>言語化することで新たな気付きや発見がある。</li> <li>短い時間で授業者の考えを聞くことができる</li> <li>頭が整理される。</li> <li>自己評価とのずれを感じることができる。</li> <li>つばきカードを活用することで視点が絞られた。</li> <li>他者の意見と自分の振り返りで実践につなげやすい。</li> <li>振り返り→改善→実践の繰り返しで授業の質を高める。</li> <li>短時間であり、担当者がまとめていたことがよい。</li> <li>多くの意見をもらうことで、次につなげることができる。</li> </ul>
	くじらとつばきと	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導方法の反省を生かし、学習のねらいがより明確になり授業改善できた。</li> <li>「くじら」の前に「つばき」があることで課題等が明確になる。</li> </ul>
	自学共伸	<ul style="list-style-type: none"> <li>後から見返すことができる。</li> <li>1枚だから管理しやすく、見返しやすい。</li> <li>授業者の意図も分かり、授業者の授業づくりの質と参観者の参観する視点も明確になり、授業改善につながる。</li> </ul>

# 1回目（事前）と2回目（事後）の教職員アンケートの分析 振り返りに関する内容別分類結果

分類項目	事前アンケート(%)	事後アンケート(%)
重要性・効果	30 次へのつながり	42 客観性 教職員の成長
方法	20	26
タイミング・時間	20	22
内容・視点	30 他学級との比較	10 授業の意図 多角的な視点

注: 重要性の実感 (重要性的実感) の増加は +12 (30% から 42%) であり、質の変化 (質の変化) は -20 (30% から 10%) である。

# 事前・事後アンケートの振り返りに関する 内容別分類結果から分かったこと

- ・振り返りの重要性を実感
- ・2段階のリフレクションの効果の実感
- ・**授業の意図**など、新たな視点へのつながり

批判的リフレクション

# 研究仮説と検証について

授業者・参観者のリフレクションを促す取組を通して、教職員自らが授業改善し、一人の学びを全体に共有することで共に伸びるであろう。

	検証の視点	検証の方法
(1)	授業者・参観者のリフレクションを促す取組は授業改善に有効であったか。	・教職員アンケート ・インタビュー ・取組の様子
(2)	自学共伸シートは授業改善に有効であったか。	

授業者・参観者の「つばきリフレクション」と、「くじらリフレクション」は「自ら授業改善し、共に伸びる」ために有効であったか。

「つばきリフレクション」と「くじらリフレクション」の両方を行う

短時間・効率的

授業者・参観者の批判的リフレクションを促す  
新たな気づきへつなげる

自ら授業改善し、共に伸びる

自学共伸シートは「自ら授業改善し、共に伸びる」ために有効であったか。

授業参観したくてもできない教職員

↓  
自学共伸シートの活用

いつでも どこでも 自分のタイミングで  
短時間・効率的に情報を得ることができる

↓  
一人の学びを全体で共有し、自らの授業改善を促す

# 研究のまとめ

## 成果

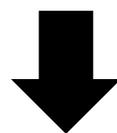
- ・リフレクションを促す取組の導入
  - ・自学共伸シートによる学びの共有・蓄積
  - ・複数人での対話→様々な視点からの気付き→新たな気付き
- 授業改善に向けた意識向上

複数人で取り組むことで大きな効果につながる

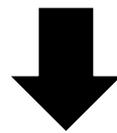
# 成果

ミドルリーダーとしての気付き

対話を通して教職員の思いを知る（出発点）



現状を踏まえ、負担のないような環境づくり



主体的な取組へ

対話を中心とした取組の推進

## 課題

- ・他の研修への汎用
- ・継続的な取組

## 改善策

- ・授業研究協議会の際の記録として記録担当が自学共伸シートの様式に書き込んでいく
- ・管理職・研究部を中心とした連携



つばきリフレクション

くじらリフレクション

自学共伸シート

3点セットで「自ら授業改善し、共に伸びる」

# 主な参考文献

- OECD (2024): 「我が国の教員の現状と課題 -TALIS 2024結果より-」p.8
- ドナルド・ショーン(2001): 「専門家の知恵 反省的実践家は行為しながら考える」(佐藤学、秋田喜代美訳) ゆみる出版pp.114-121
- 中央教育審議会(平成27年): 「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について~学び合い、高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて~(答申)」pp.3-4
- 千々布敏弥(2021): 「先生たちのリフレクション 主体的・対話的で深い学びに近づく、たった一つの習慣」教育開発研究所pp.30-33、pp.157-160
- 大山牧子・畑野快(2023): 「授業の経験に対するリフレクションと学習成果との関連-大学生を対象としたリフレクション尺度の開発を通して-」 「日本教育工学会論文誌」47(2)p.217
- 千々布敏弥(令和5年): 「主体的・対話的で深い学びを実現する教師の批判的リフレクション」 「教育研究岩手」第111号pp.6-7